



ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

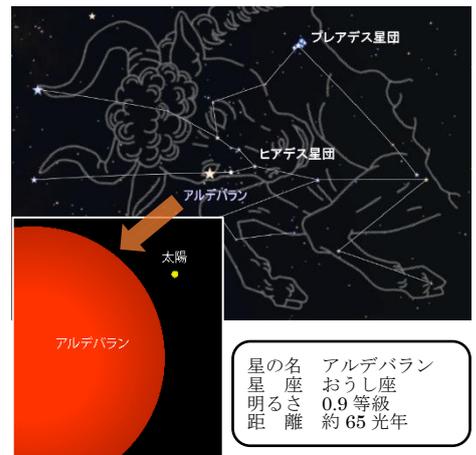
1月中旬夜8時頃、南から東の空には冬の星座が広がり、7つの1等星が輝いてとても賑やかな夜空が見られます。南東の空には「オリオン座」の1等星ベテルギウス、その下には「おおいぬ座」の1等星シリウス、東には「こいぬ座」の1等星プロキオンが明るく輝き、これら3つの星を結びと冬の星座を探す目印として有名な《冬の大三角》ができます。南の空高くに昇った「おうし座」の右目で輝くのは1等星アルデバラン。それに続いてV字型に並んでいる星の集りは《ヒアデス星団》です。アルデバランはヒアデス星団に属する星のように見えますが、実際はアルデバランが地球から約65光年、ヒアデス星団が約150光年離れているため、全く別の場所にあります。ちなみに、ヒアデス星団は太陽系



に最も近い星団と言われています。また、「おうし座」の肩の位置には青白く輝く星の集りの《プレアデス星団》もあります。肉眼では6~7個、双眼鏡では数十個の星の集団を観測でき、その名はギリシャ神話のプレイアデス七姉妹を由来とします。日本では「すばる」の名前から古くから親しまれ、清少納言の随筆「枕草子」の一節にも登場します。

★ おうし座 α 星「アルデバラン」

牡牛の右目にあたるアルデバランはオレンジ色に輝く1等星で、主系列星から赤色巨星へと進化した巨大な恒星です。大きさ(直径)が太陽の約40倍もあり、表面温度は約3,900度と低いのですが、絶対等級は太陽の500倍以上とも言われています。また、明るさが不規則にゆっくりと変化する脈動変光星であり、わずかに(0.2等ほど)変光(明るさが変化)していますが、肉眼では確認できません。アルデバランという名前は、アラビア語で「後に続くもの」という意味で、アルデバランが東の地平線から昇ってくる時に、先に昇るプレアデス星団(すばる)の後に続いて昇ってくることから、そう呼ばれています。日本でも「すばるのあとぼし」という名前が伝わっています。



※星図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 細い月が金星や土星に接近!

1月の日の出前には、南東の低い空に金星やアンタレス、水星が見えており、9日には月も加わって賑やかな夜空が見られます。

日没後すぐ南西の低い空には土星が見えており、14日には細い月が土星のすぐ下に並ぶので、ぜひ観察してみてください。



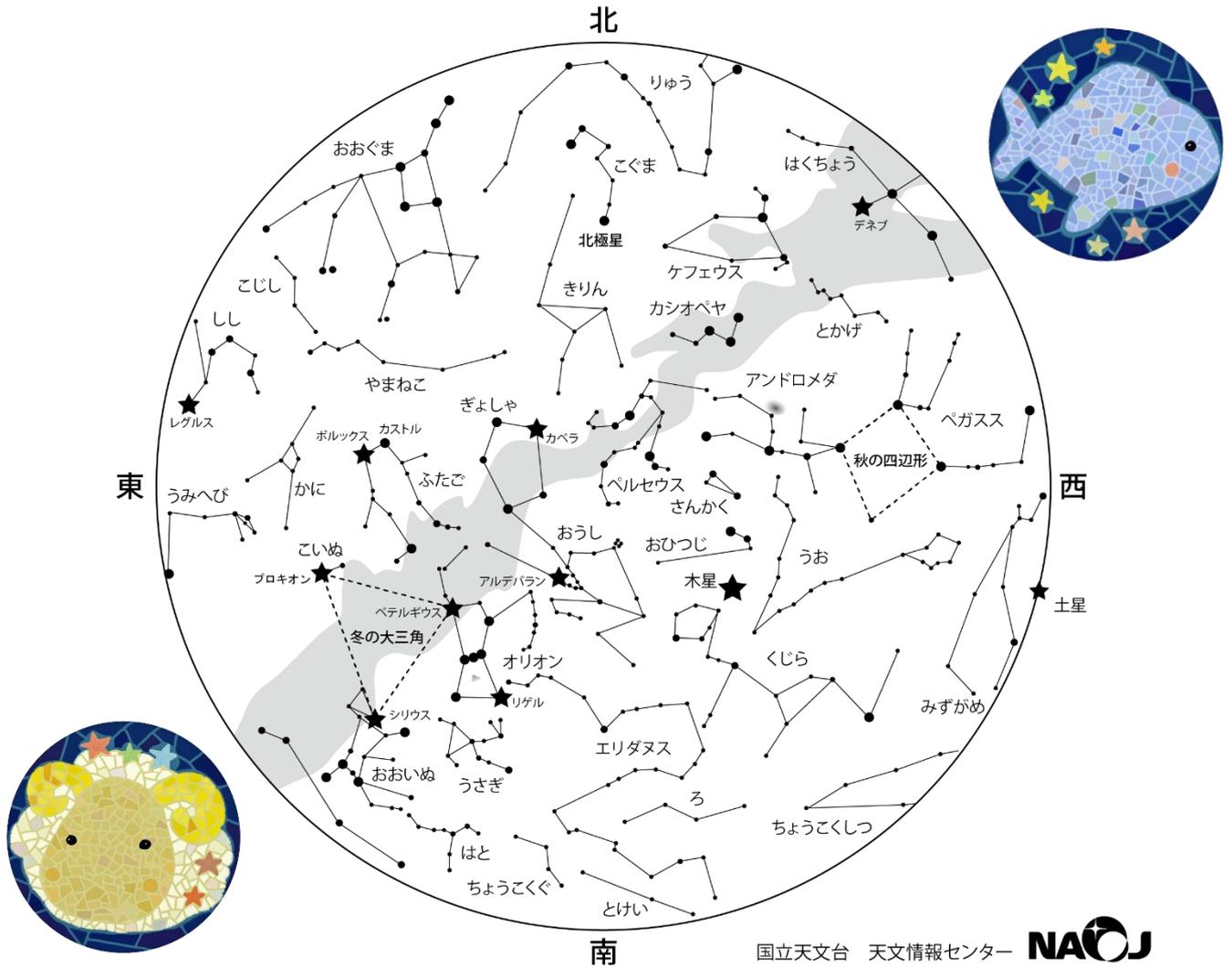
図の縮尺は同じですが、どちらも月は大きさを強調して描いています。

★ 1月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください ☆

★ プラネタリウムのお休み

1/1(月)~4(木)、9(火)、15(月)、17(水)、22(月)~24(水)、29(月)

1月上旬午後8時30分頃の星空



★ 1月上旬の主な天文現象

4日(木) ● 下弦、しぶんぎ座流星群が極大	11日(木) ● 新月
6日(土) 小寒	12日(金) 水星が西方最大離角
9日(火) 細い月と金星・アンタレスが接近	14日(日) 細い月と土星が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 1/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 1月 3日(水) [見やすさ◎]	6:25 北西	~	6:31 東南東
◇ 1月 5日(金) [見やすさ◎]	6:25 西北西	~	6:31 南南東
◇ 1月 6日(土) [見やすさ◎]	5:38 北西	~	5:43 南東
◇ 1月15日(月) [見やすさ◎]	18:11 南西	~	18:16 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。